

平成26年度

特定非営利活動法人三鷹ネットワーク大学推進機構

「民学産公」協働研究事業成果報告書

研究事業名

地域広報システムとセキュリティセンサー&カメラシステム（防災防犯、福祉用）
を融合した「クイックアドバイザー（三鷹モデル）」の研究

株式会社インテリジェンス・ワークス

目次

1.	協働研究事業の概要・目的	3
2.	申請団体のプロフィール	3
3.	協働研究事業の参加団体プロフィール	4
4.	協働研究事業の期間	5
5.	協働研究事業の背景	5
	・ 防災	5
	・ 防犯	5
	・ 福祉	5
6.	協働研究事業の詳細	8
6-1.	広報・防災関連	8
	・ 設置場所	8
	・ 実験概要	8
	・ 設置したもの	8
	・ 実施スケジュール	9
	・ 研究事業と実験内容詳細	9
	・ 問題点とその対策	12
	・ 今後の計画	12
	・ 実験結果&考察	12
6-2.	広報・防犯・福祉関連	14
	・ 設置場所	14
	・ 設置したもの	14
	・ 実験スケジュール	14
	・ 研究事業と実験内容詳細	15
	・ 研究内容・経過	15
	・ 効果の例	17
	・ 問題点とその対策	19
	・ 今後の計画・実験結果と考察	21
6-3.	産業イベントへの出展	22
	・ 「三鷹産業プラザまるごと夏まつり」	22
	・ 第4回武蔵野エリア産業フェスタ	24
7.	その他の取り組み	26
8.	今後の取り組み／終わりに	27

1. 協働研究事業の概要・目的

弊社開発製品「クイックアドバタイザー」は

1. 情報提示機能（地域関連・地域貢献に役立つ広報を表示）
2. 情報収集機能（カメラやセンサーを使ったイベントなどの取り込みによって、セキュリティを強化する）
3. 情報伝達機能（ネットワーク・音声・緊急表示による情報伝達）を兼ね備えた地域広報システムである。

広報とセキュリティを融合したシステムは他にはないユニークなものである。三鷹市で先頭を切って始めることによって、近隣地域はもとより、全国に広がっていくことを目的とする。

基本的に使用者の個々の要望に合わせての設定やプログラムが組める「イージーオーダー」が可能なシステムである。今回の協働研究では、これらの機能を用いて防災・防犯及び福祉関連（主に高齢者対策）に活用し、その効果を検証してきた。

2. 申請団体のプロフィール

株式会社インテリジェンス・ワークス

代表取締役：荒木貴代美

住所：東京都三鷹市下連雀3-32-12-101

電話&FAX：0422-45-5564

事業内容：ソフトウェア開発販売・音声音楽コンテンツ制作・人材育成

URL：<http://www.intelligencewroks.co.jp>

3. 協働研究事業の参加団体プロフィール

- ・公益財団法人 三鷹市芸術文化振興財団
三鷹市芸術文化センター
三鷹市公会堂
- ・NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構
- ・三鷹市上連雀郵便局
- ・美容室兼一般家庭
千葉県流山市

4. 協働研究事業の期間

2014年（平成26年）7月22日～2015年（平成27年）2月13日

5. 協働研究事業の背景

・防災

「空振りになってもいいから 情報を！ 警告を！」

準備を整えておき、いつでも情報を発信できるようにしておくべきだという住民を守る立場の人、そして逆にそれらの情報が欲しいという人々の不安を払拭するために貢献することがこのシステムで可能である。

・防犯

個々の環境や要望に合わせて、設定（イージーオーダー）ができるため、最低限の機器でも使用可能である。（安価で軽量、手軽に設置できる Web カメラ使用、ソーラー使用で電池バッテリー等が不必要、手軽に設置できる各センサー使用、エンジンを動作させるコンピュータは Windows OS で且つエンジン使用可能であれば手持ちのものでも可）

・福祉

特に独居高齢者、そして認知症の方を抱える同居家族の方に、何かあればケアワーカーや近所ボランティア、離れた場所にいる家族等にも連絡できることで、早めの対処が可能となる。

個々の環境や要望に合わせてイージーオーダーが可。

Quick Advertiser

商標登録5706856号

情報提示 情報収集 情報伝達 3つの機能を兼ね備えた
地域広報&セキュリティシステム

情報提示機能（広報システム）

- * 広報（企業広告含む）
歩きスマホ・自転車スマホに対する注意
ひったくり・放火・喫煙・空き巣対策
違法駐車・振り込め詐欺・駐車場荒らし
- * 市・警察署・消防署・自治体等からの広報
災害時の避難ルート・ハザードマップ
避難場所／避難所の案内・災害時の心得
イベント情報・地域の情報

オリジナル設置BOX



モニターを外に向けた場合

情報収集機能（セキュリティシステム）

- セキュリティカメラ&センサー設置
（セキュリティ監視システム）
基本的にWebカメラ使用のため手軽
- 数秒ごとに（時間自由設定）HDIに保存される
大量保存が可能（JPEGファイル）
保存設定が自由



トリガー（引き金）

- * センサー（ドア開け閉め・人感・温度・湿度・音・照度・振動・煙など）
- * 自動設定（時間・日にち・曜日等）
- * 前後の映像の違い
- * HPからの自動取り込み
- * 手動（人の手によるもの）

プラットフォーム
システムエンジン
「IW-Station」
オーサリングソフト
IWS
商標登録5294569号

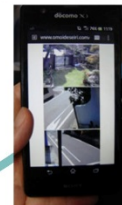
情報伝達機能（セキュリティシステム）

緊急時自動表示

- * 警報・注意報などを流す
避難ルート・避難場所／避難所の情報
被害情報・冠水情報
気象情報・地震情報
特別警報など

- * Wifiなどのネットワークによる情報伝達
メール通知
ネットを通じてのカメラ画像確認（時間設定自由）
- * 自動音声
自動的に情報を音声で伝達

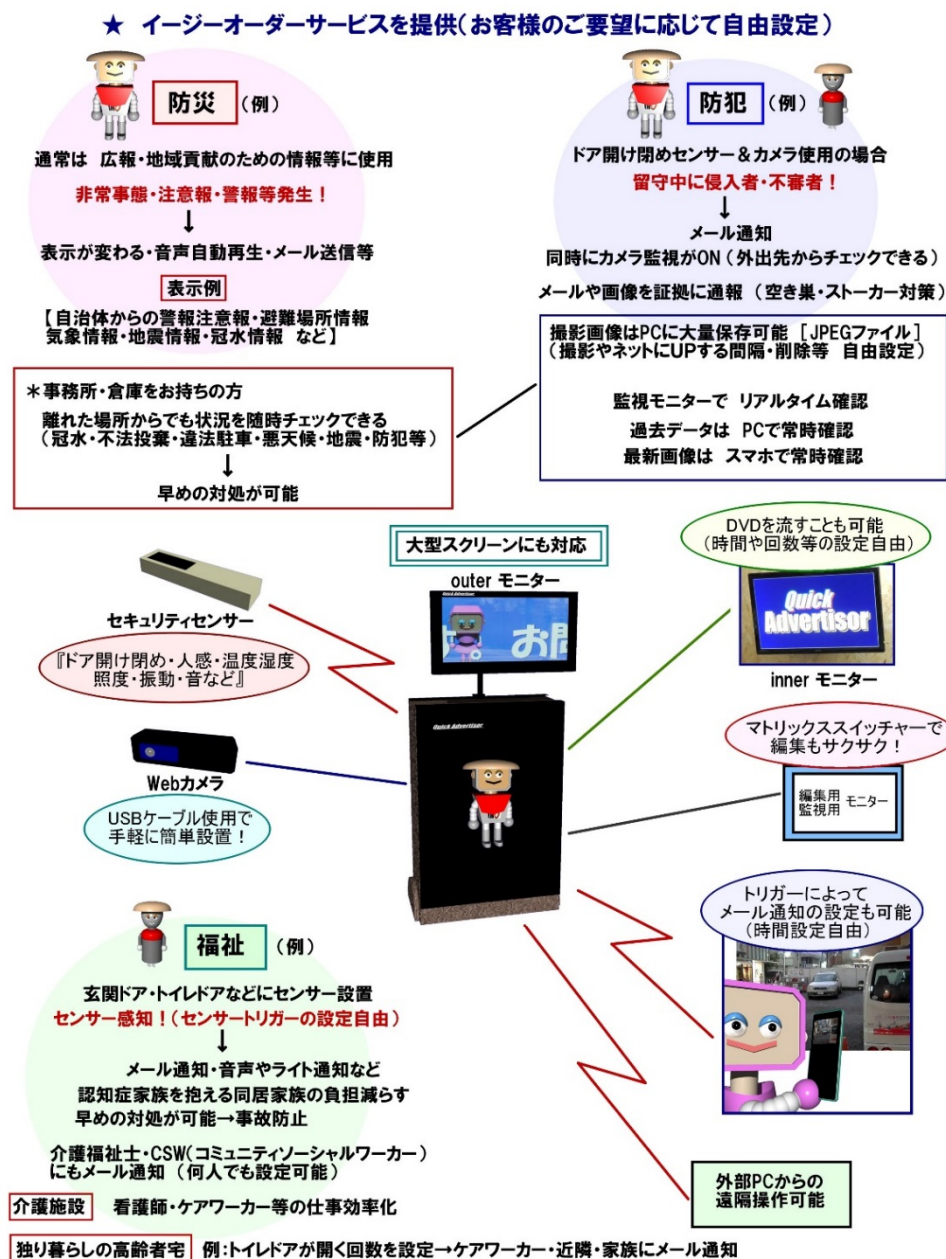
スマホで画像を随時確認



導入事例（三鷹市内郵便局・商工会・三鷹芸術文化センター・店舗・事務所・一般家庭など）



パンフレット図-1



★ すべての機能を環境に合わせて自由に選択し、自由に設定が可能です

お客様のご要望を詳細にお聞きしながら設定、また開発も致しますのでご遠慮なくお問い合わせください

パンフレット図-2

6. 協働研究事業の詳細

6-1. 広報・防災関連

・設置場所

三鷹芸術文化センターの1Fロビーに設置

・実験概要

通常は提携レストランやショップの情報を流しているが、トリガーによって表示が自動的に変わることの実験

三鷹市ホームページの緊急速報を自動で取り込めるかの実験

・設置したもの

クイックアドバタイザー 広報システム一式



図6-1

- ・広報システム用パソコン 1台
- ・広報／緊急表示用ディスプレイ 1台
- ・ディスプレイ用アーム 1台
- ・設置ボックス 1台
- ・無線キーボード／マウス
- ・編集用ディスプレイ 1台（三鷹公会堂事務局）
- ・編集用パソコン 1台（三鷹公会堂事務局）

※使用機材：MousePro-M375B：iS370B：iiyama27型/21型ディスプレイ
（株式会社マウスコンピュータ）

・実施スケジュール

- 10月1日 三鷹市芸術文化センターにて打ち合わせ
- 10月9日 弊社事務所にて説明&講習
（IW-Stationの使い方、画像を取り込んだの表示方法、テロップの
流し方など）
- 10月10日 編集用パソコン&ディスプレイを担当者に渡す
担当者デスク横（三鷹公会堂事務局）に置き、今後の編集を
行う
- 10月14日 設置用機材&設置ボックス準備完了
- 11月はじめ 担当者によって表示画面（全21画面）が完成
- 11月14日 三鷹市芸術文化センターの1Fロビーに設置
- 11月18日 担当者が弊社事務所にて再度講習
- 12月 提携レストラン&ショップ画面増設（26画面に）
- 1月27日 三鷹市芸術文化センター事務局次長、三鷹公会堂広報の方の立合いのもと、
緊急表示の実験
- 2月13日 設置したクイックアドバタイザー一式を撤去

・研究事業と実験内容詳細

三鷹市ホームページからの自動取り込み

サーバ上の指定した部分が変更されたことをトリガーとし、広報から緊急（または重要なお知らせ）表示に自動で変更できるかの実証実験を行う予定だった。

三鷹市ホームページのトップページ（約20万件／月 アクセス数）に「重要なお知らせ」があり、随時3、4件の事項が表示されているが、新項目が更新されると上書きされていく。

ただ、三鷹市では市全体の情報を流しており、小さな地域範囲での情報は作っていないとのことだった。

サーバ上で変更されたものをプログラムでひろっていくので、三鷹市ホームページのサーバ管理をしている株式会社セルコ様を紹介してもらった。

株式会社セルコ様によると、自動ではなく、人の手でコンテンツ変更しているため、ホームページからの自動取り込みはできないとのことであった。

完全自動化は難しいと判断し、ホームページからの自動取り込み実験は取りやめとした。

今回は時間もないことから、芸術文化センター側がロビーで緊急時等に流したい要望を聞いて弊社側でコンテンツを作り、トリガー（今回の実験では「時間」をトリガーとした）によって自動的に画面が変更するというのを、独自に確認できる内容にした。

その場にいる人達、または地域の人達にとって必要な情報等を聞いて、それに見合ったコンテンツを流すようにした。



図6-2

通常表示

提携レストラン&ショップの情報（26箇所）が流れている



図6-3

実験での緊急表示内容

「地震が発生しました。直ぐに従業員の指示に従って避難してください」



図6-4

「空振りになってもいいから 情報を！ 警告を！」をもとにして、広域の情報よりも、地域の情報を、という地域住民が一番知りたい情報を提供できることを実証した。

・クイックアドバタイザーの緊急表示で何の情報を知りたいか（聞き込み調査より）

1. その場所からの避難ルート
2. 一番近い避難場所
3. 避難が可能な場所
4. 一番近い病院（緊急時でもオープンしている病院）
5. リアルタイムの情報（避難場所（例：A小学校または病院）の最新情報など）

・使用者側として、クイックアドバタイザーの緊急表示で何を表示したいか（三鷹市芸術文化センターからの要望として）

1. 地震の詳細情報
2. 混乱を起こさないための呼びかけメッセージ

「その場で収まるまで待機して」「館内のスタッフが安全確認、避難誘導をする」等

3. 一番近い緊急避難場所
4. 芸文センターから外部への出口までの経路（メイン・サブエントランス）

・問題点とその対策

停電時の電源確保→対策（UPS無停電電源装置・蓄電機・発電機）

リアルタイム情報を誰が入力するか→対策（事前に予測される情報センテンスは作っておきそれを自動で表示する・遠隔操作を可能にできればよい）

・今後の計画

スマホをスイッチャーに利用することで利便性を高める

マトリックススイッチャーの充実（画面切替は研究期間中に完成）

さらに信頼性の高いデバイスを探し、組み合わせによって完成品を作る

リレー装置の先の充実（ハードの充実）

提携先・代理店の設置により、全国に広めていく

・実験結果&考察

広報システムでは、コンテンツ制作を、クイックアドバタイザーを所有している側が自分の手で自由に作れることがひとつの目的である。そのことにより、業者に広告制作を依頼し、更新のたびにさらに依頼しなくても、自分で簡単に広報内容を好きなときに自由な内容で変更できる。また、経費削減にも繋がる。そして何よりも、所有者が自分で作ったものが実際に情報として流れて、人々の役にたっているということの満足感や達成感に繋がるのがもうひとつの目的である。

弊社側で用意したひな型を利用すれば、使用者がプログラムの専門知識がなくても手軽に内容変更できたことも確認できた。

広報内容では使用者に関する広告だけでなく、啓蒙を含めたもの、注意喚起を促す内容を流した際に、見る人々からの注目度が非常に高かった。使用者は、地域の社会貢献ができることで満足度が高くなった。これは地域ごとに立地する郵便局でも同様である。実際にクイックアドバタイザーのシステムを導入し、協力をいただいている、上連雀郵便局で

も同様であると局長からも感想をいただいている。

今回の実験では、所有側が広報内容を制作することが面倒だと感じるかどうか、または時間も人員もないといった状況があるかどうかを確認したかった。

結果、作成する広報の方も一緒に実験に参加していただき、今回その担当の方が快く講習を受けてくださったということ、そして意外にも簡単であることを理解してくださり、また自分で作ったものが自分の仕事場、公共の場で流れているという事実に満足感を得てもらえたことが充分に確認できた。

また、実際に設置したシステムを見て、設置した側の方々が「これはおもしろい、便利だ、役に立つ」と思ってくくださったことも確認できた。これは実験において非常に重要な点であった。

6-2. 広報・防犯・福祉関連

・設置場所

店舗／一般家庭

住所：千葉県流山市

・設置したもの

クイックアドバタイザー一式

- ・ 広報システム用パソコン 1台
- ・ 広報表示用ディスプレイ 1台
- ・ セキュリティシステム用パソコン 1台
- ・ モニター／編集用ディスプレイ 1台
- ・ Web カメラ 3台
- ・ 設置ボックス 1台
- ・ パソコン切替機 2台
- ・ ディスプレイ用分配器 1台
- ・ USBハブACアダプタ 1台
- ・ LANルータ 1台
- ・ USB延長コード 10m 3本
- ・ ディスプレイ延長コード 2本
- ・ キーボード／マウス切替機 1台
- ・ コード用モール8本
- ・ ドア開け閉めセンサー 1式
- ・ センサー受信機 1台

※使用機材：MousePro-iS370B：iiyama27型ディスプレイ（株式会社マウスコンピュータ）
センサー（開発：株式会社アイテック「アーミンセンサー」／販売：泉商事株式会社）

・実験スケジュール

8月29日、31日 クイックアドバタイザー一式を設置

9月1日～ ドア開け閉めセンサー作動によるメール通知開始

広報システムとセキュリティシステム作動開始

2月4日

カメラ3台とセキュリティPC、設置ボックス以外撤去

・研究事業と実験内容詳細

ドア開け閉めセンサーをドアに取り付け、受信機はセキュリティPCのUSB差込口に差した。ドアを開ける毎に、メール通知されかつカメラで撮影もする。室内デスク上の編集用パソコンで随時画像が確認でき、かつその画像は1分毎にネットを通じてリアルタイム画像がアップされていくようにした。1分毎に撮影された画像はセキュリティパソコンのハードディスクに保存されていくように設定した。

センサーは軽量で小さく、ソーラー電池使用でドアに両面テープ等で貼るだけでよいという、非常に手軽なものを使用した。どこにでも取り付けが可能であった。

メール通知は、100%届いたことを確認。(毎日9:00~10:00の1時間の間にドアが開く毎にメール通知が来るように設定した。時間は自由に設定可能)

メインPCと編集用ディスプレイは以前より使用しているものを使用した。また、ネット回線も既存のものを利用した。Webカメラは3台使用した。(2つは外の壁に設置、1つは室内から外に向けて窓ガラス越しに設置)

・研究内容・経過

・センサー感知の精度

ドア開け閉めセンサーを店舗ドアに取付け、午前9~10時の間にドアが開く毎に、メールで通知→1時間の間に毎日数回開け閉めがあるが、100%通知あり。

・3台のカメラで映される画像

ネットを通じて、常にどこからでもスマホや携帯の画像で確認できる。ネットにアップされる時間は自由に設定できる。

店舗の宣伝だけではなく、「空き巣、歩きスマホ、自転車スマホ、ひったくり、放火、火の用心、不法投棄、詐欺」などに関する広報も流した。「皆がマナーを守って、あかるい街をつくろう」などという文章も入れるなどした、市役所商業振興課の方達数人が見つけてお店に立寄った。また地元商工会議所の方も興味を持って見に来られた。

- ・ドア開け閉めセンサーを使用した防犯対策・福祉関連対策として



ドア内側にセンサーを設置 図6-5



ドア外側にカメラを設置 図6-6



センサー受信機（USB差込） 図6-7



センサー一式（ドア開け閉め・温度湿度・照度・人感・受信機） 図6-8



分配器・切替機 図6-9



ディスプレイ切替機

図6-10



リレー装置

図6-11

(マトリックススイッチャーを研究事業中に開発し使用しているため、切替機は必要なくなった。また、リレー装置は自分達で「はんだ」で接続部分を開発、このリレー装置により、どの機器にも接続できるようになった)

・効果の例

認知症家族を抱える同居家族に（福祉）

徘徊による行方不明や事故を防ぐために、玄関のドアを開けて出ていった時点で瞬時に同居家族に知らせ（メールや音声など）が来たら安心である。

夜中でも別の部屋にいる家族がすぐにわかれば事故を未然に止めることができる。早ければ早いほどリスクが低くなる。家族の介護疲れによる病気発症を少しでも防ぐこと、安心感を提供することに貢献できる。

独居老人の事故防止に（福祉）

トイレのドアに開け閉めセンサーをつけておき、例えば1日に1回もトイレのドアが開けられなかったとき、メール通知や音声で知らせることで事故や孤独死などを防ぐことができる。（開閉回数、時間設定は生活環境に応じて設定）

メールの通知は担当のケアワーカーや、離れた場所にいる家族や親戚、地域ボランティアなどの人達や業者など、複数に設定が可能である。

ストーカー対策に（防犯）

ストーカーに悩む人が、留守中に誰かが侵入したことを外からでも知ることができる。カメラを設置することで、その画像を証拠に警察に知らせて緊急であることをわかってもらえる。

家の内側と外側へのカメラ設置

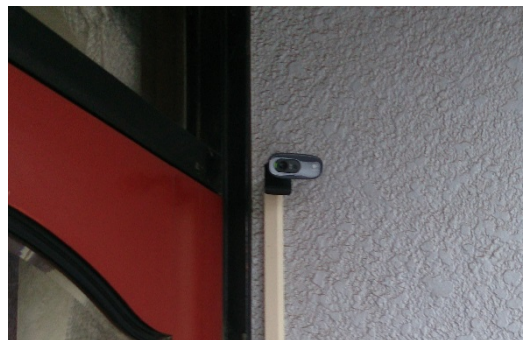
時間設定によるスマホや携帯での画像確認（実験では1分間ごとに送れるよう設定・パソコンへの保存も1分間ごと。時間設定は自由にできる。1分毎の保存だと、1台のカメラで1ヶ月に500MB程度。もちろん30秒毎、10秒毎それ以下でも保存可能。保存期間・消去も自動設定できる）



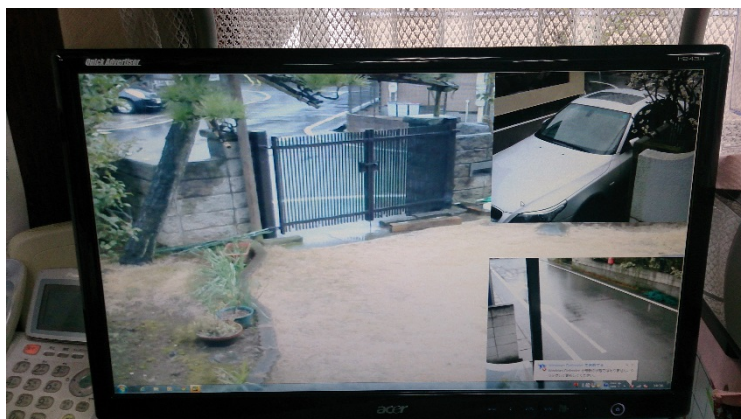
画像確認 図6-12



窓の内側に設置した 図6-13



家の外側に設置したカメラ 図6-14



カメラ3台のモニター画面とスマホで確認した画面
図6-15

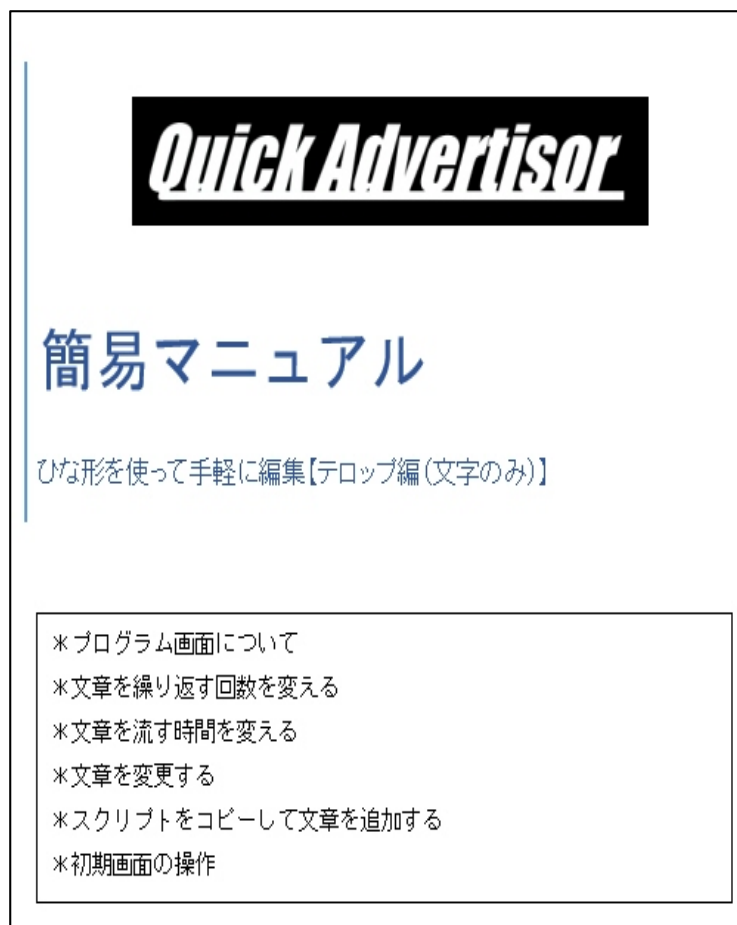


店舗での広報（テロップ）
図6-16

・問題点とその対策

- ・使用者がより簡単にクイックアドバタイザーを利用するために

テロップ部分は、弊社でひな型をつくり、使用者は文字部分を変更するだけで、いつでも手軽に広報内容を変えることが可能であるが、使用者が自分でも使い方を確認したい場合に備え、簡単なマニュアル（15ページ）を作成した。



(図・簡易マニュアル・表紙)

システムエンジンのソフトのヘルプの中に、詳しい使い方が入っているが、マスターするには、どうしても講習が必要になる。より幅広く利用したいという希望者には講習提供を可能としている。(マニュアルは電子データで保存)

・カメラの設置

モールにカメラを取り付ける際に、最初はテープで固定していたが、よりしっかり固定させるために、また手軽に上下左右に方向移動できるようにした。



Web カメラ（単体） 図6-17



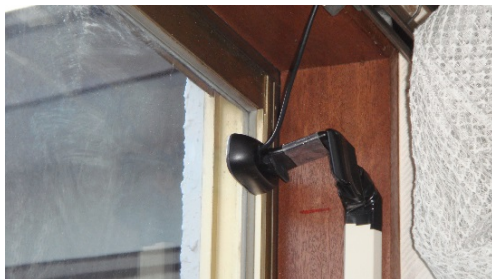
取り付け器具 図6-18



カメラ後方 図6-19



モールの中にスポンジを入れて固定 図6-20



以前のカメラ設置（固定型）
図6-21



上下左右に動作が可能になった
図6-22

・カメラを外に設置する場合

カメラは有線であるため、ケーブルを外に出すのに、壁に穴をあけなければならない。幸い今回は元々ストープを設置していた箇所の壁の裏側に外へ通じる通気口があったので、それを利用できた。今後は環境によってはそのための工事が必要と

なる場合がある。カメラは野外設置は可能だが、屋根のある場所でのみ利用できる。

・今後の計画・実験結果と考察

ドア開け閉めセンサーをトリガーにした実験は思い通りの結果となった。100%の確率でメール通知が瞬時に来た。他のセンサー（照度・温度湿度・人感）も弊社側でイベント等でも試験をしてみたが、環境と場所によって感度の違いがあった。製品の精度に関しては今後メーカー側と話をしていく。

ストーカー対策としてもドア開け閉めセンサーを使用した実験を三鷹警察署に協力してもらおうと試みたが、個人情報の問題もあり、実験は行なわなかった。

ドア開け閉めセンサーを使った場合は、独居高齢者の孤独死等を防ぐのにおおいに役に立つものと思われる。また認知症患者を抱えるその家族にも有用である。さらに防犯面で個人宅や集合住宅だけでなく、介護施設等でも利用できる。リレー装置を利用すれば、設定により、部屋の温度湿度が高くなった際の夜中に扇風機が作動することで、高齢者の熱中症予防にも繋げていくことができる。

聞き込み調査によると、店舗のお客様の中で質問をした約15人中のほとんどの方が、このセキュリティシステムなら取り付けたいと言ってくださった。（今までは取り付け工事や費用の面であきらめていたとのことであった）

自治体が持つ中古パソコンを利用した活用は今回の実験では行わなかったが、店舗兼個人宅である実験場所では、広報システム用のパソコンと編集用ディスプレイは元から使用していたパソコンとモニターを使うことができた。（OSはWindowsでスペックと空き容量が弊社エンジンソフト「IW-Station」を動かすのに充分で、ディスプレイ画面も1980×1080ピクセルの解像度があれば使用可能である）ネット回線も既存のものを十分に利用できた。

カメラの設置を手軽にできるような方法を見出し、実際に自分達で取り付けをした。スイッチ切替機を使わなくてもよい方法として画面上で作動できるマトリックススイッチャーを研究事業中に開発した。

広報が自由にできる上に、防犯もできるシステム、しかもハード面は自由に選べるといった、使用者側の要望でいかようにもできるシステムは他にはないものである。今後は代理店等を通じて全国規模で広めていけると考える。

6-3. 産業イベントへの出展

・「三鷹産業プラザまるごと夏まつり」

場所：三鷹産業プラザ7F会議室 東京都三鷹市下連雀3-38-4

日時：7月26日（土）11:00～17:00

主催：株式会社まちづくり三鷹 後援：三鷹市

研究事業内容：

毎年行われる夏まつりイベントで、毎回約2,500人の家族連れが来場する。弊社は今年で参加4年目であるが、今年はクイックアドバタイザーの製品特質を利用して、センサーの精度と感度がどの程度かを検証した。

1. 簡易ドアを作り、開け閉めセンサーを取り付け、子供達がドアを開けると、それをトリガーとして、ドアを開けた子供達の姿が映し出される。ディスプレイの通常表示はバーチャルウィンドウと広報画面。
バーチャルウィンドウでは、画面の中の人とじゃんけんゲームができるようにした。

設置したもの

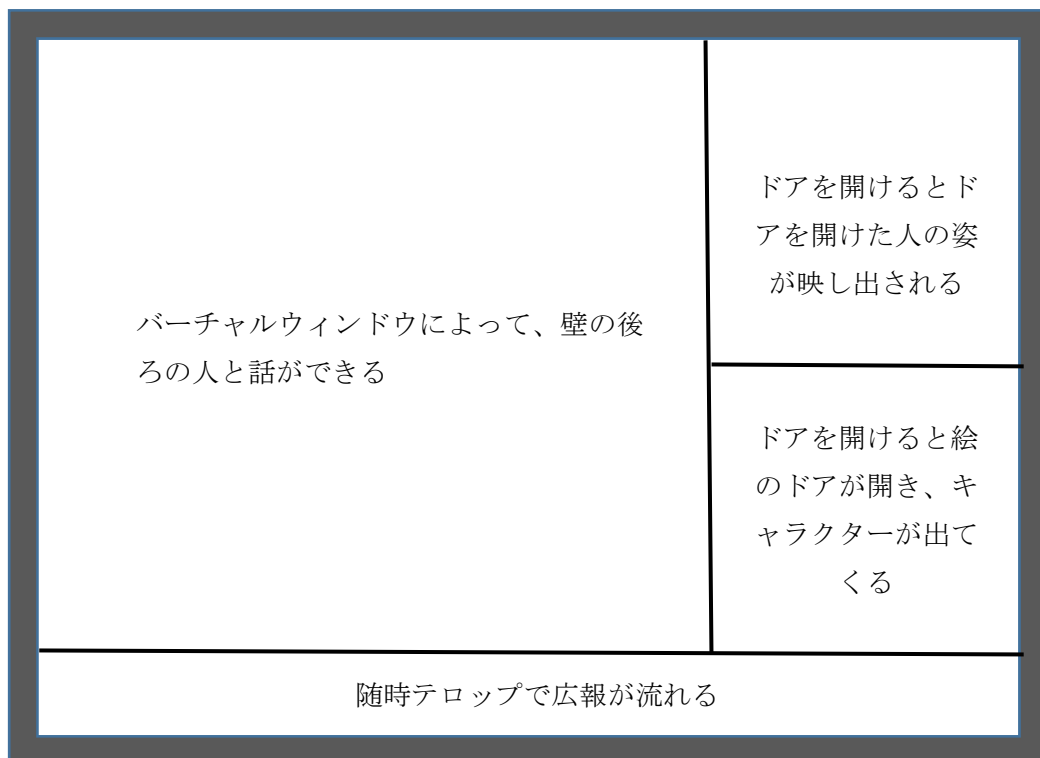
クイックアドバタイザー一式



図6-23



図6-24



2. ディスプレイは27インチのものを使用した。画面は自由に設定でき、それぞれの動きも自由に設定できる。開けた瞬間に目に見える変化が起きるので、わかりやすい実験だったが、ドアが簡易すぎて、子供達がおもしろがって思い切り引っ張るので、途中でドアノブが壊れてしまい何度も直した。その後ドアノブは鍋のフタを利用した。

・第4回武蔵野エリア産業フェスタ

場所：吉祥寺東急イン3F 東京都武蔵野市 吉祥寺南町1丁目6-3

日時：平成26年11月12日（水）10：30～17：30

主催：武蔵野商工会議所・三鷹商工会・小金井市商工会

後援：武蔵野市・三鷹市・小金井市

協力：多摩信用金庫

研究事業内容：

1. ダンボールで作ったハウス（弊社製作）を使って、広報と共に防災・防犯・福祉方面と多方面に使用できることをわかりやすく展示した。

設置したもの

クイックアドバタイザー一式

図6-25



ドアを開けると開け閉めセンサーによって、右の画面に開けた人の姿が映し出される。画面は通常表示として、広報画面とその下にテロップが流れている。また、時間設定によ

り、数分ごとに緊急表示（例）が流れるように設定した。同時にハウスの右サイドにあるLEDライトが点灯するように設定した。リレーによってアウトプット側の機器は要望や環境によっていかようにでも変えられる。

図6-26



人感センサー、照度センサー、温度湿度センサーも使用したが、イベントでは開け閉めセンサーが体験型の実験としては一番適していた。



LED ライト 図6-27



各センサー装置 図6-28



各分配器 切替機 図6-29



リレー装置 図6-30

2. エンジンソフトを中心として、どのトリガーを使ってインプットにするか、何をアウトプットにするかは使用者側が自由に選べることを説明した。リレー装置を使用することで、利用できる幅が無限に広がっていくこと、設置後も使用者の要望通りに変更が手軽にできることなどを説明した。リレー装置はAC電源でなくても、パソコンからのUSB接続から電源供給できることがわかった。リレーによるアウトプットはライトや音声、電化製品等も含め、各機器装置の電源のオンオフが可能である。

当日はたくさんの企業や来賓の方々が来場し、弊社の説明を熱心に聞いてくださった。ドアを開けると自分の姿がすぐに映し出されることに感動する人が多かった。特にドアの開け閉めセンサーの設置とメール通知や音声通知により、防犯だけでなく福祉にも役立てることと、手軽にセンサーやカメラの設置や移動ができることに興味を持つ人が多かった。

7. その他の取り組み

研究事業の中で、三鷹ネットワーク大学の紹介及び立合いのもと、三鷹市や三鷹警察署との打ち合わせを行った。参考までに下記に記しておく。

- ・三鷹市防災課（7月31日 場所：ネットワーク大学）
システムの説明、及び今後の研究事業の取り組みについて
- ・三鷹警察署生活安全課（8月12日 場所：三鷹警察署）
特にストーカー対策に役立つように、研究事業の中でシステムをどのように扱えるか
- ・三鷹市安全安心課（9月5日 場所：三鷹市役所）
防犯面におけるシステムの活用について（安心安全メールとの連携など）
- ・三鷹市秘書広報課（12月5日 場所：三鷹市役所）
三鷹市ホームページと、緊急自動表示システムとの連携について

8. 今後の取り組み／終わりに

クイックアドバイザーの大元になっている弊社開発のオーサリングソフト「IW-Station」は今後も進化し続け、ユーザーの要望によってさらに変化していく。ひとつひとつのスクリプトを自由自在に利用することで、その個々のスクリプトが変幻自在となる。このスクリプトのことを今後は「SEED」と名づけていくことにした。育てれば育てるほど進化そして変化していくからである。変更や入れ替え、組み合わせも可能である。また、設置ボックスも現在はボックスの形になっているが、今後は変化していくと考える。

広報に関しては、例えば「防犯協会」「自転車協会」「たばこ関連協会」等と、啓蒙を含めた広報を流して連携をしていくことで、よりユーザー側の金額負担を軽減していけるような仕組みも作っていきたい。

また、温度湿度センサーの使用によって、夏の夜の高齢者の熱中症対策にも対応できるということも広めていく。

今回の協働研究事業を行ったことで、三鷹ネットワーク大学をはじめ、三鷹市、三鷹警察署、三鷹市芸術文化振興財団の方々にはたくさんの協力とアドバイス等をいただいた。三鷹市の中で弊社の事業を周知してもらうのに良い機会を得ることができた。少しでもこのクイックアドバイザー（広報&セキュリティシステム）が今後も社会と多くの人々の役に立てるよう、真摯に開発／拡販を続けていきたいと考えている。